

流通BMS マッピングシート 作成Tips

一般財団法人 流通システム開発センター
流通システム標準普及推進協議会（略称：流通BMS協議会）

0. はじめに

- この「流通BMSマッピングシート作成Tips」は、マッピングシートを作成する際の基本的考え方や、間違いやすい点を集めた補足的な資料です。

- 流通BMSの標準仕様については各種ガイドラインが正となります。導入に当たっては各種ガイドラインをご参照ください。
 - 流通BMS標準仕様
<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/standard/standard01.html>

- マッピングシートの作成に当たっては、協議会でマッピングシートチェックを行っておりますのでご活用ください。
 - マッピングシートチェック
http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/active/mapping_check.html

目次

- 1. マッピングシートを作る上での基本的考え方
- 2. 注意が必要な運用・項目
- 3. 不要な手間を省くために

1. マッピングシートを作る上での 基本的考え方

1-1. 必須項目と利用の有無について

- 流通BMSには、利用が必須となっている項目が多くあります。
必須項目は必ず利用してください。（スキーマチェックでエラーとなります）
- また、マッピングシート作成に当たり、取引先に無用な混乱を与えないために
必ず「利用有無」欄に明記してください。
例：利用する→「○」 / 利用しない→「（空白）」
 - 「○」が無いのに、サンプル値が入っているケースが多くみられます。
 - 今まで使用していなかった項目に「新規」などを記載すると、取引先が混乱する場合があります。

発注 ページ 番号	項目名 1	項目名 2	項目名 3	必須 / 任意	タイプ	XML データ型 *1	初期	引継 項目	コード リスト	利用 有無	現行の 項目名	サンプル1 【×××の場合】
										例：○	例：伝票番号	例：123456
1	伝票番号			必須	文字	string						
2	伝票番号発行元			必須	文字	string						
3	伝票番号			必須	文字	string						
4	伝票番号発行元			必須	文字	string						
5	バージョン			必須	文字	string						
6	インボイス番号			必須	文字	string						
7	メッセージID			必須	文字	string						
8	作成日時			必須	日時	dateTime						
9	チスト区分ID			任意	文字	string						
10	最終伝票番号			任意	文字	string						
11	メッセージID			必須	文字	string						

1-2. コードリスト

- 流通BMSには、「コードリスト」から値を選ぶ項目が多くあります。一部の例外※を除き、**「コードリスト」がある項目については、値の意味を変更したり、独自項目を使用することは出来ません。**標準として用意されているコードリストの中から選択してください。

引継項目	項目の意味	選択入力しているデータ項目 *2	コード リスト	資料 *4
	55「取引先コード」に対する名称（半角カナ）。卸/メーカーで社内標準を作成する際の名称表示に使用する。	取引先名称カナ、仕入先名称カナ		
	一つの取引先コードの中で、取引明細データの起りを分ける場合に取引先コードの下階層の区分けコードとして使用する。事前の当事者間の合意のもとに、小売側が設定する。	発注先区分		
	55「取引先コード」+59「枝番」のくくりの中で、さらに取引明細データの起りを分ける必要がある場合に、枝番の下階層の区分けコードとして使用する。事前の当事者間の合意のもとに、小売側が設定する。			
	取引先の出荷拠点を表す。取引先側が設定する物流用GLN。入荷業務を行う際に、この項目と、センター納品番号をキーにして出荷データを抽出する。事前の取決め（契約）により卸/メーカー側が指定。			
	小売が卸/メーカーに対し、店舗直接納品なのか、センター経由納品かを指定する区分。	ルート区分、00無指定、01:店舗直納、02:センター納品	○	
	小売店舗への納品配送便、あるいは納品時間帯を表す。センター納品の場合、便ごとに当事者間で決めた時刻までにセンター納品していただく。	便、00無指定、01~09:1~9便 等	○	
	卸/メーカーの小売センターへの納品後、卸、センター内で店舗仕分けの上で配送がされるか（通過）、センターに一旦在庫されるか（在庫）を表す。	00無指定、01:TC、02:振りDC、03:貫取DC	○	
	卸/メーカーの小売センターへの納品形態。単品組量納品が単品別納品なのかを表す。	00無指定、01:組量納品、02:別納品	○	
	小売が卸/メーカーに対し、直接納品先へ納品する時刻を指定する場合に使用する。午後3時なら'150000'とセットする。	納品時刻		
	物流ラベルに印字するバーコードを入力する汎用項目。当事者間の取り決めの上で利用する。	便、納品区分、商品区分、発注区分、出荷データ有無区分、配送温度区分、伝票レス区分、陳列		

※項目番号184「処理種別」、187「返品・値引理由コード」、191「照合結果」の3項目のみは独自の値を使用可能です。

1-3. 項目の引継ぎについて

- 流通BMSでは、「発注」→「出荷」→「受領」…と引き継がれていく項目が多数存在します。
引継ぎ項目には、基本的※に元の値（前のメッセージの値）をそのままセットしますので、必須・任意に関わらず途中ですぐ勝手に値を入れ替えてはいけません。
また、途中から使用しなくすることもできませんし、
発注から引き継ぐべき項目を出荷等からセットさせることもできません。
不要な場合、発注から使用しないようにしてください。

- 詳しくは、引き継ぎ項目一覧をご覧ください。

Ⅲ. メッセージ項目の解説 1. メッセージ項目およびコードリスト一覧 (1)メッセージ引継項目一覧

◎:必須、○:任意、●:選択必須

メッセージ項目番号	分類	項目名	必須/任意	タイプ	XMLデータ型	桁数	発注	出荷	出荷梱包(紐付けあり)	出荷梱包(紐付けなし)	受領	受領訂正	返品	請求	支払			
1	データ整合性	送信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	送信者ID		
2		送信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	送信者ID	
3		受信者ID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	受信者ID	
4		受信者ID発行元	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	受信者ID	
5		バージョン	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ビジネス	
6		インスタンスID	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ビジネス
7		メッセージ種	必須	文字	string		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	ビジネス
8		作成日時	必須	日時	dateTime		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	メッセージ

※一部、欠品時に再計算される項目等がありますが、その場合の処理は標準仕様で定義されています。

1-4. 使用桁数について

- 定義されている使用桁数を超える桁数を利用することは出来ません。
- 桁数がMAX〇〇桁となっている項目において、桁数が変動する場合は、MAX桁数をサンプルに明記してください。
- スペースも文字として認識され文字数に数えられますので、最大文字数(桁数欄：MAX nn)の指定がある場合ご注意ください。
- マッピングシート作成にあたって、使用桁数を下回る場合の処理について明記してください。
 - 例：桁数を「2桁」と指定しているがサンプルでは「1」（1桁の記載）と記載されている。
→ “1△（blank）”もしくは“01”等の表記に変更してください。

2. 注意が必要な運用・項目



2-1. 非EOS発注に対する出荷始まり運用が発生する場合

- 非EOS発注に対する出荷始まり運用が発生する場合、
マッピングシートにその旨を記載ください。
 - 非EOS発注の列を作成いただくと、より明確に伝わります。
 - マッピングシートに出荷始まりに関する記載が無く、
メッセージ項目番号174「EOS区分」に【01】しかサンプルがない場合、
出荷始まり運用は発生しないものとして判断されます。
- また、出荷始まり運用が発生する場合には、
必ず受領メッセージを送信してください。

(2) 出荷メッセージ							利用 有無	現行の項目名	サンプル1 【EOSの場合】	サンプル2 【非EOSの場合】
項目	メッセージ 項目番号	分類	XML データ 型 *1	桁数	引継 項目	コード リスト	例：○	例：伝票番号	例：123456	例：789012
SDH										

2-2. 非EOS発注に対する出荷始まり運用の使用可能項目

- 電話・FAX等のオフライン（非EOS）発注に対して、取引先側が出荷データを送信するいわゆる、「出荷始まり型」の運用の場合、一部の項目は固定値をセットしたり、使用できない定義となっています。

（運用ガイドラインの『オフライン発注に対する出荷メッセージ標準化項目』をご参照ください）

誤りやすい項目例：

項目番号	項目名	セットする値
121	取引番号(発注・返品)	固定値【0】or【小売範囲指定の伝票番号】
27	直接納品先コード	使用しない
28	直接納品先GLN	使用しない
102	直接納品先納品日	使用しない
172	発注区分	使用しない
157	数量合計	使用しない
123	取引明細番号(発注・返品)	固定値【0】
72	商品コード(GTIN)	固定値【0】

2-3. メッセージ項目番号184「処理種別」について

- メッセージ項目番号184「処理種別」には、
なんでもセットできるわけではありません。
以下の様な運用は標準外となりますので、ご注意ください。

- 定番、特売、期間奉仕品などの判断 → 「商品区分」を利用。
- 店舗直納、センター利用などの指示 → 「納品経路」を利用。
- 返品 → 返品メッセージを利用。
- 値引き／値増し／赤伝 → 標準の運用として定義されておられません。
- 定番品／特売品の区別 → 「商品区分」を利用

なお、「処理種別」はターンアラウンド型の情報交換を前提として、小売業側で移行期に必要となる情報を残せるように定義されたものであり、この項目で取引先に何らかの判断を要求することは認められておりません。

2-4. メッセージ項目番号334「不定貫区分」について

- メッセージ項目番号334「不定貫区分」は 生鮮食品を扱う場合にのみ使用する項目です。

生鮮食品を取り扱わない取引先は、この項目を取り込めない可能性がありますので、生鮮食品以外の場合には、この項目のセットを避けてください。

混乱を避けるために、利用する場合は一例として「※不定貫のみ利用」などのコメントを付けたうえでサンプルの記載を行う方法があります。

2-5. 訂正データについて

- 流通BMSの標準仕様として、出荷メッセージや受領メッセージに 訂正に関するデータを埋め込むことは標準外となります。
 - 特に、メッセージ項目番号231「自由使用欄」等を訂正区分として用いることは重大な違反※となります。
 - 受領に関する訂正を行う場合には受領訂正メッセージをご利用ください。
 - ※ 受領訂正メッセージについて詳しくは、「運用ガイドライン（その他メッセージ編）」の該当部分をご参照ください。

※「自由使用欄」の定義は「そのまま出力するメモでの使用に限定し、この項目でシステムの処理を制御する使い方は不可」ですので、区分として用いることはできません。

3. 不要な手間を省くために (標準外ではなくても、混乱するケース)

3-1. 不要な問い合わせ・混乱を防ぐために

- マッピングシートは「取引先と情報を共有するための文書」です。
（社内文書ではありません）
 そのため、先方が混乱をきたすような記載は避けるよう心掛けてください。
 - 悪い例：
 - ✖ フォント・セルに色がついている（変更履歴のためなどの名残）
 - ✖ 文字に取り消し線がついている（削除した履歴の名残）

- 引き継ぎ項目については利用方法に「発注メッセージから引き継ぎ」などの記載をいただくと、運用が明確になります。

3-2. 全角／半角

- 「商品名」などの項目タイプが“文字”となっている項目には、半角スペースも含め、半角のデータのセットを避けてください。
 - 項目のタイプに“（半角カナ）”と記載されていない項目は全角と定義されているデータ項目であり、企業によっては半角のデータに対応出来ない場合があります。
 - 項目のタイプに“（半角カナ）”と記載されている項目は、明示的に全角とは区別した項目を意味しているため、スペースも含め、半角でのデータのセットをお願いします。

	項目名 2	項目名 3	必須 / 任意	タイプ
	取引先名称カナ		任意	文字 (半角カナ)
	積番		任意	英数
	出荷先コード		任意	英数
	<物流関連指示>			
	出荷場所GLN		任意 *3	数字
	納品経路		任意	数字
	標No		任意	数字

3-3. 「出荷荷姿情報」タグ

- 出荷メッセージ連番161～166の「<出荷荷姿情報>」下のタグと出荷梱包メッセージ連番94～127「<ITF情報>」下のタグはセットを省略することができます。
不要な場合には、その旨をマッピングシート上に記載ください。

147	152	数量	1	4	入数 (非EOSの場合は"1"固定)	-
148	153	数量	0	6	発注単位数 (非EOSの場合は"0"固定)	-
149	154	数量	00	2	"00"(個)(固定)	-
150	155	数量				
151	326	重量	240.000	10	01:不定貫の場合、発注重量をセット	-
152	327	重量				
153	313	商品関連				
154	314	商品関連				
155						
156	159	数量	240.0	7	出荷数量(バラ)	-
157	160	数量		6	出荷数量(発注単位数)	-
158	328	重量	240.000	10	01:不定貫の場合、出荷重量をセット	-
159						
160	165	数量	0.0	7	発注数量(バラ) - 出荷数量(バラ) (非EOSの場合は"0.0"固定)	-
161	166	数量		6	発注数量(発注単位数) - 出荷数量(発注単位数)	-
162	197	各種区分(発注)				
163					< 出荷荷姿情報 > タグは作成不要	
164	76	商品関連				
165	112	日付関連				
166	113	日付関連				
167	126	番号				
168	156	数量				

3-4. コードリストの明示

- 項目番号87「商品分類（大）」や項目番号89「商品分類（小）」、項目番号193「支払内容(個別)」などを利用される場合には、必ずマッピングシートに該当する項目のコードリストを添付ください。
 - また、内容によっては、セットするコードの使い分け判断が、取引先側では難しいことが多々ありますので、コードリストに明確に記載いただくことをお勧めします。

3-5. 商材・運用等によってセットが異なる場合

- 商材や部門、納品形態や発注方法によって、セット方法が異なる場合には、サンプル行を複数行作成してください。

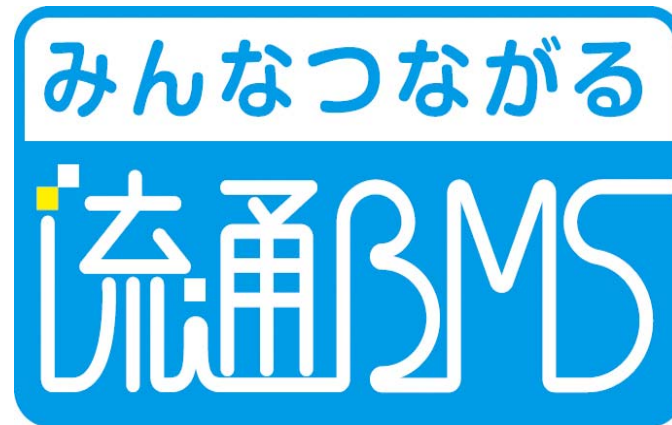
利用 有無	現行の 項目名	サンプル1 【XXXの場合】	サンプル2 【XXXの場合】	サンプル3 【XXXの場合】	※ 使用桁数	新規の項目 利用方法	現行の項目 利用方法
----------	------------	-------------------	-------------------	-------------------	-----------	---------------	---------------

● サンプルの記入例

【ドライの場合】	【チルドの場合】	【生鮮の場合】
【店別スルー納品】	【総量納品】	【店直納品】
【EOS発注の場合】	【非EOSの場合】	

memo





<http://www.dsri.jp/ryutsu-bms/>

「流通ビジネスメッセージ標準」ならびに「流通BMS」は一般財団法人流通システム開発センターの登録商標です。